

みんなの広場

公民館は令和5年に **50** 周年を迎えました。

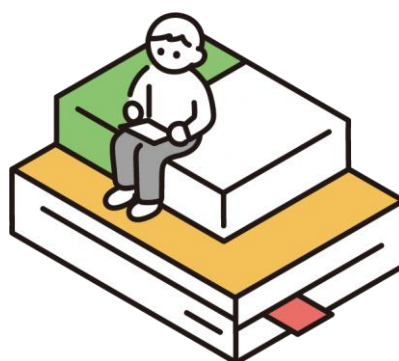
令和6年(2024年)度
多摩市公民館 事業報告

永山公民館 / 関戸公民館



目次

施設概要.....	1
事業計画.....	3
事業の記録.....	7
1. 地域・生活課題を考える事業	7
2. 学校・家庭教育支援事業	11
3. 市民・時事問題講座事業	17
4. 地域活性化事業	23
5. 市民文化活動支援事業.....	28
6. 情報発信事業.....	33
7. その他連携等事業	34
管理・運営	39
1. 永山公民館	39
2. 関戸公民館	39



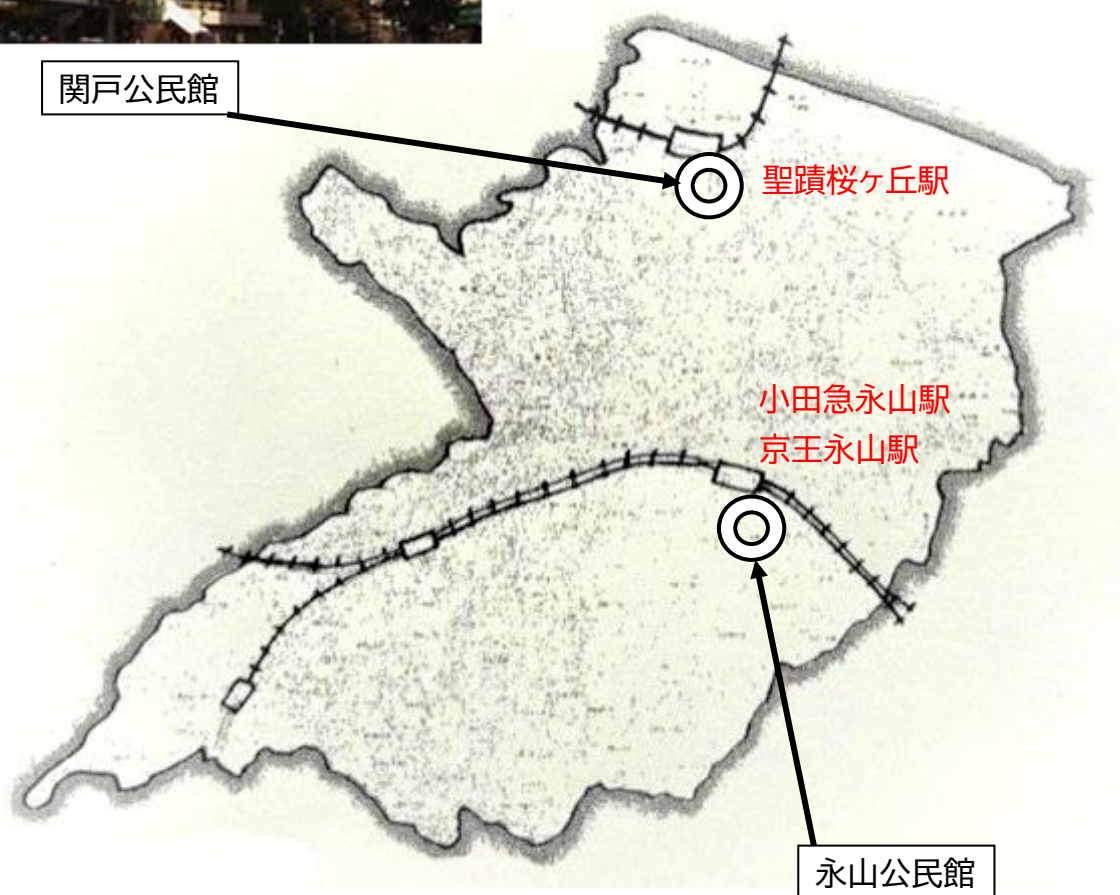
1

施設概要

※多摩市内には公民館が2館あります



関戸公民館



1. 多摩市立永山公民館

開 館 平成9年4月1日
 所 在 地 多摩市永山1-5(永山駅前複合施設「ベルブ永山」内)
 電 話 042-337-6661
 敷地面積 4,705㎡(民間部分含む)
 延床面積 3,761㎡
 構 造 鉄筋コンクリート造
 施設内容

多摩市立永山公民館(ベルブ永山内)							
	室 名	面 積	定員		室 名	面 積	定員
5 階	ベルブホール	226㎡	198	4 階	学 習 室	37㎡	20
	第1音楽室	84㎡	45		集 会 室	112㎡	54
	第2音楽室	22㎡	12		創 作 室	56㎡	18
3 階	ギャラリー	100㎡	—		視 聴 覚 室	93㎡	48
		70㎡	32		和 室	20畳	20
	サークル活動室				第1保育室	69㎡	20
					第2保育室	69㎡	20

2. 多摩市立関戸公民館

開 館 平成11年9月23日
 所 在 地 多摩市関戸4-72(ヴィータ・コミュニネ内)
 電 話 042-374-9711
 敷地面積 9,003㎡(民間部分含む)
 延床面積 6,242㎡/6,480㎡(多摩市施設分)
 構 造 鉄筋鉄骨コンクリート造
 施設内容

多摩市立関戸公民館(ヴィータ・コミュニネ内)							
	室 名	面 積	定員		室 名	面 積	定員
8 階	ヴィータホール	245㎡	250	7 階	ス タ ジ オ	83㎡	66
	第1学習室	76㎡	48		創 作 室	78㎡	32
	第2学習室	76㎡	48		保 育 室	55㎡	15
	第3学習室	71㎡	40		ギャラリー	102㎡	—
	和 室 1	16畳	16		ミーティングルーム	51㎡	24
	和 室 2	8畳	8				
	茶 室	49㎡	—				

～公民館は、市民同士が「つどう」「まなぶ」「つながる」ことを促し、
人づくり・地域づくりにつなげていきます～

令和 6 年度にスタートした、第六次多摩市総合計画(令和 6 年 3 月)の分野別めざすまちの姿「地域で学び合い、活動し、交流しているまち」の実現に向けて、少子高齢化や環境問題、多様化する社会状況などの地域課題を踏まえた各種講座の実施や、市民活動への支援などを通じて、幅広く学習の機会や活動の場を提供することで、市民の社会教育活動に取り組んでいく。

また、多摩市教育振興プランや多摩市生涯学習推進計画、多摩市学びあい育ちあい推進審議会からの提言「多摩市におけるこれからの社会教育施設のあり方について」(令和 4 年 2 月)を踏まえ、自主的な活動を支援しながら継続した学習活動が進められるよう、行政機関をはじめ各関係機関との連携・協働を図り効果的に進めていく。

各事業の展開においては、本年度から組織を統合したことから、永山・関戸両公民館の立地環境や地域性を活かしながら事業を実施する。また、誰もが親しみやすい公民館として多くの市民に参加してもらえよう情報提供のあり方や事業形態など工夫するとともに、地域及び団体や大学等と連携を深め、社会教育の役割を推進していく。

さらに昨年度まで実施していた「たま学びテラス(多摩・島しょ広域連携活動助成事業)」については、今後も両市民が相互に事業参加できるよう、日野市との連携を緩やかに継続していくとともに、近隣自治体や大学、活動団体等との連携を深めていく。

1. 地域・生活課題を考える事業・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・

地域の課題や、社会・日常生活において自分たちに関連する問題解決の糸口、方向性を見出せるような講座を実施する。

(1) ベルブゼミ

地域の課題、人材、学習意欲を掘り起こすきっかけとなるよう講座を企画。継続した学習から人のつながり、地域の広がりとなるよう実施する。

(2) 市民企画講座

市民団体から地域、生活課題などを見据えた企画を公募して実施支援し、市民の自主的な学習活動の振興を図り、広く学習の場を提供する。

(3) 地域生活講座

地域の拠点施設であるコミュニティセンター等との連携やデジタルデバイド対策などを含む地域や生活課題の解決につながる講座を実施し、人づくり地域づくりにつながる場を提供する。

2. 学校・家庭教育支援事業・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・

乳幼児から小中学生を対象にした講座や子育て子育てを応援する事業を、学校や地域、市民団体と連携を図りながら実施する。

(1)子育て支援講座

子育ての不安、悩みを参加者同士が共有できる場づくりとともに、自分自身の生き方についても考え、継続して学習することを通して、ネットワークを作っていく機会とする。また、青少年を取り巻く社会的・教育的な問題や課題について学ぶ機会を提供する。

(2)保育室開放デー

保育室を開放して、ゆったり過ごせる場を定期的に提供し、乳幼児とその親同士の交流とともに子育てに関する情報や地域の情報などを広く提供する。

(3)子育てつどいの広場

コーディネーターが常駐し、安心して集い交流できる場をつくるとともに、市内で活動する団体や保育園などとも連携し、さまざまな情報の提供を含め地域の子育て環境の充実を図る。

(4)小学生等体験講座

地域の人材や大学生を講師として、学校や家庭では体験することが難しい専門的な講座や、親子や多世代が交流できる講座を通して、経験や知識・視野を広めるきっかけをつくる。

(5)学校や地域と連携した事業

公民館施設を活用したりイベントなどの場を通じて児童・生徒の学習成果を紹介していく。また、学校のカリキュラムで地域を学ぶ総合教育などに協力していく。また、市内中学生の職場体験や、事業へのボランティアの受け入れをし、人と接すること、働くことなどを学ぶ機会をつくる。

(6)小学校PTA連絡協議会(小P連)共催事業

小P連が企画運営する事業を共催して実施し、小学生や保護者に広く公民館を知ってもらうとともに、小P連との関係づくりをはじめとして家庭の教育力向上を目指す。

(7)家庭教育学級・家庭教育講座

子どもたちの豊かな心を育成していくために、保護者に対して生活習慣の重要性や子育てに関する知識を学ぶ機会をつくり、家庭の教育力向上を目指す。

3. 市民・時事問題講座事業・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・

時事的なテーマや文化・芸術に触れ、生活に潤いがもたらされるような講座、若者を対象とした視点の講座等を実施することで、市民の学習意欲や意識の向上を図り、公民館未利用者層へもアプローチしていく。また、障がい者など多様性を尊重した視点を大切に、人権啓発に努めていく。

(1)障がい者青年教室

障がいがある青年を対象に、余暇の仲間づくりや社会参加への一歩を踏み出すきっかけ

をつくる。

(2)人権について考える講座

人権の大切さについて学び考える機会になるよう、庁内各課や関係機関と連携して啓発していくことで、誰もが個性と多様性を尊重しながら地域活動や日常生活の中での実践等に結びつけていく。

(3)市民講座

その時々課題をタイムリーに捉え、さまざまな角度で課題を見つめていく機会を設け、市民の学習意欲の向上を目指す。また、市民生活に身近なテーマを取り上げ、生活・文化の知識を楽しく深めあうことで、地域での豊かな実生活に結びつけていく。

(4)地球大学院

環境、貧困、経済・資源など国際的な課題から、地域社会で生起している現象などを市内の大学との連携で開催し、社会とどう関わるかを考える契機とする。

(5)郷土・伝承文化講座

多摩の古代から現代までの歴史を学ぶことを史跡見学会も含め実施し、郷土を知り、見つめなおす機会とし、令和5年度まで実施してきた「たま学びテラス(多摩・島しょ広域連携活動助成事業)」で行った郷土史関連事業を継続していく。

また、茶華道等の伝統文化に親しみ、参加者間の交流も促進する事業を実施する。

4. 地域活性化事業・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・

永山駅周辺地区の活性化を図る事業を、公民館、消費生活センター、図書館、及び民間商業施設、市民団体等との協働により実施する。まちの賑わいととも地域づくりに寄与する。また、聖蹟桜ヶ丘駅前施設としての関戸公民館の周知を図るため、地域団体や市民と連携し、各施設を活用したイベントを開催する。

(1) 永山フェスティバル

令和6年9月開催。第25回目となり、これまでの実績を踏まえつつ、更に地域の発展へつながるような工夫を盛り込み開催。

(2) VITAふれあいまつり

令和7年2月開催。VITAふれあいまつりとしては第3回目(旧地域ふれあいフォーラム)となり、地域で活動している団体間のネットワークを構築するとともに、公民館の活動を知り、新たな地域活動へのきっかけを創りだしていく。

(3)地域イベント協力事業

永山公民館では「こいのぼり掲揚」「クリスマスイルミネーション点灯」など地域に協力した事業を実施する。また、関戸公民館では「せいせき桜まつり」「朝顔市」などへの事業協力を実施する。

(4)施設等活用事業

市民団体等とオープンスペースなどを活用した催事を行い、公民館の賑わいづくりや周知を図る。

5. 市民文化活動支援事業……………

さまざまな分野の文化芸術で、市民が主体となって企画や運営する催しに協力し、広く定着し活動が活発になるよう、市民の実行委員会に会場提供等の支援をする。

(1) サロンライトコンサート

出演者を公募形式で募集し、クラシックやジャズ、邦楽などさまざまな分野のコンサートを月1回開催し、身近な場所で音楽に親しみ気軽に楽しんでいただく機会とする。

(2) TAMA シネマフォーラム

令和6年11月開催(ほか、随時上映会を年間を通して開催)

(3) 多摩演劇フェスティバル

多摩演劇フェスティバルは実行委員会により年間を通じて開催されている。市民に観劇の機会を提供すると共に、実行委員会・劇団への会場提供、舞台制作、広報活動支援により演劇が地域に根付くことをめざす。

(4) ヴィータ・コンサート

ヴィータ・マンスリーコンサートは令和6年度から隔月開催とし、ヴィータ・コンサートと改名。企画・運営は実行委員会が行い、出演者を公募・推薦形式で選定する。さまざまなジャンルのコンサートを開催することで、市民に身近な施設で音楽に親しんでいただく機会を提供する。

(5) What's JAZZ

実行委員会がプロのジャズミュージシャンを招聘して、有料でのライブコンサートをヴィータホールで年4回開催する。

6. 情報発信事業……………

市民の交流を図る公民館通信の発行で、社会教育団体の活動や公民館事業、地域での取り組みなどを紹介し、公民館未利用者層を含め新たな活動に誘うとともに、さまざまな情報媒体を通して情報を発信、提供していく。

(1) 公民館通信「たのしいまち」の発行

(2) 広報・ホームページなどでの情報提供

(3) サークル紹介カードの掲示

7. その他連携等事業……………

令和3年度から3年間、東京都市長会の「多摩・島しょ広域連携活動助成」を受け、日野市と多摩市の事業連携を行った実績を踏まえ、令和6年度以降も連携をすすめる。また、東京都やさまざまな団体・機関と連携し、市民の学びを拡大する事業を実施する。

3

事業の記録

1. 地域・生活課題を考える事業

市民企画講座

■目的： 市民団体から、地域・生活課題等の企画を募集し、自主的な学習活動の促進を図り、広く学習の機会を提供した。

■内容： 下表講座一覧参照（実施日時は割愛）

講座一覧

団体名 テーマ	内 容	講 師	回数	参加者数
多摩市聴覚障害者協会	①デフリンピックとは？②手話言語条例について③手話通訳の課題とこれから	川俣郁美 氏(2025 年デフリンピックアンバサダー)ほか	3 回	延べ 167 人
自立ステーション つばさ「しょうがいがあっても共に学び、遊び、生きるインクルーシブ社会の実現に向けて」	①「みんなの学校」上映会②星の王子様シン・脱施設～ソーシャルインクルージョンの道③誰も取り残さないみんなで一緒に学ぶために④インクルーシブ防災～助け合える地域づくり～⑤パントマイム「インクルーシブ社会」	NPO 法人ワンステップかたつむり 国立、一木玲子 氏(東洋大学人間科学総合研究所研究員)ほか	5 回	延べ 376 人
なかま“萌”「明るい未来に向かって」	①今、気になっていること②タイムマシンに乗って③自分が叶えてきたこと④自分を認める・ほめる⑤振り返り	小柳茂子 氏(臨床心理士、相模女子大学名誉教授)	4 回	延べ 51 人
ボランティア TAMA 聞き書き隊 「聞き書き」ボランティア入門講座	「聞き書き」手法を用いたワーク・作品制作	平尾一彦 氏(日本聞き書き学校認定講師)	4 回	延べ 58 人
ボランティアサークル 絵手紙くるくる 「絵手紙講習会」	①絵手紙って何？②季節の花を楽しむ③季節の果物いろいろ④日常の台所用品	小谷陽子 氏(絵手紙くるくる代表)	4 回	延べ 28 人
多摩演劇フェスティバル実行委員会「たまには歩いて芝居ワークショップ」	多摩演劇フェスティバル 35 周年記念事業の一環。永山から関戸地域を歴史に触れながら歩き、グループでテーマを決めて短い芝居に作り上げ発表。	コウゾエイコ(劇団カカワクワディーゴ代表)	1 回	8 人

■まとめ： 今年度は計 6 団体から申込があり、ヒアリングを経て 6 団体すべて承認し実施し

た。各団体の特色・持ち味・専門性を生かした講座がそれぞれ展開され、各団体の自主的な学習の支援をすることができた。各講座参加者からは、新たな学びや気づきにつながれたことが感想から伺えたことから、自主的な学習活動の場の支援に寄与できたと考える。

一方、講師謝礼の支援上限や変更申請の受け付け期限など課題もあり、事務手続きの効率化や公平公正な事業展開のために、募集要領の全体的な見直しを検討する。



バルブゼミ「落語うんちく～公民館青年教室から40年～」

■目的：日本の伝統芸能をテーマに、座学や実演の鑑賞を通して「落語」の背景や歴史・江戸文化を学ぶ機会とした。また、約40年前の公民館の青年落語教室から始まった「多摩落語寝床の会」の活動が多摩市及び近隣市で定着した活動となっていることについて、継続の理由などをテーマにすることで、つどい・学び・市民同士がつながる社会教育の目的と重要性を伝える場とした。

■日時：令和7年3月8日(土)・15日(土)、14:00～15:30

■場所：永山公民館集会室、消費生活センター講座室

■テーマ(内容)：

①1日目「うんちくのはじめ」

落語に関するクイズ、落語とその他の演芸の違い、落語家の階級・数・団体・亭号、噺の種類や演技方など。会員の一席(寿限無)

②2日目

定席(城跡)と轟真(ひいき)、小道具、上下、古典落語と新作、上方落語と江戸落語、女流の活躍、寝床の会の40年、会員の一席(時そば)

■講師：多摩落語寝床の会会長 塚原修氏 ほか同会会員4名

■対象：落語に興味、関心がある方

■人数：①11人 ②13人※原則2回出席であったが、各日1回の参加者も参加可とした

■費用：無料

■まとめ：「多摩落語寝床の会」は、今回の講座を実施するにあたり、全員で進行・内容を検討し、参加者が楽しんで落語という伝統芸能について学べる工夫をしてくれた。市民団体に講師を依頼することで地域の人財育成や、団体の活動を広く知ってもらえる良い機会になっ

たとえる。公民館利用団体や市内活動団体を講師に起用することで、団体活動のモチベーションを支える一助になるよう、今後も働きかけをしていきたい。



地域生活講座（コミュニティセンター等との連携事業）

■目 的： 地域・生活の課題を解決するため、地域施設、関係機関と公民館とが協力し、地域に横たわる課題を共有し、考えていく場として実施。近年はコミュニティセンターと共催し、地域と職員相互の関係作りも含めた情報収集なども意図し、かつ参加者が学び交流できる機会を提供した。

■対 象： 各コミュニティセンター利用者を中心とした市民

■費 用： 無料

①「笑いヨガ」講座(公民館からの持ち込み企画)

■日 時： 10月17日(木) 14:00～15:30

■場 所： ゆう桜ヶ丘

■内 容： 腹式によるヨガの呼吸法・軽体操

■講 師： 岡井 裕美氏（笑いヨガティーチャー・看護師）

■対 象： ゆう桜ヶ丘利用者を中心とした市民

■人 数： 25人

②関戸の歴史スポットウォーキング～関戸の歴史を歩いて学ぶ(コミセンからの運営協力依頼による)

■日 時： 12月12日(木) 10:00～12:00

■場 所： 関戸周辺

■内 容： 「せいせき観光まちづくり会議」作成の「歴史の散歩道 関戸～寄り道」を題材に、関戸地域の歴史スポットを巡り、学芸員からの解説を聞き学ぶ

■講 師： 橋場万里子氏(多摩市文化振興財団学芸員)及び市民学芸員

■人 数： 21人

■まとめ： 今年度は公民館からのアプローチだけでなく、コミュニティセンターからの共催依頼により事業を実施した。関・一つむぎ館からは地域の団体が作成した冊子の活用と、地域

の歴史を知ることによって愛着を深めてもらうという目的が明確であったため企画・運営が非常にスムーズであった。一方、地域課題や地域住民が必要としているテーマの掘り起こし、情報収集などについては充分ではなく、関係組織や庁内関係部署との共有をはじめ、今後の事業の在り方・進め方の見直し、再検討が課題である。



街でバリスタ はじめの一步～セミナー&カフェ学&発表～

■目的： 地域の次代の担い手づくりという課題に着目し、リタイア世代や地域活動に参画したり、仕事以外の人との関係作りを希望する市民をターゲットに、まちづくりの視点を持ったカフェ・コーヒー講座を実施。カフェ・コーヒー好き同士それぞれの特徴を生かし合いながら発表につなげていくことで、参加者同士の関係性構築につなげ、習得した技術・知識を地域に還元することを目的として講座を実施した。

■日時・場所・内容・講師

日時	場所	内容	講師
令和7年1月18日(土) 18:00～20:00	珈琲屋黒子(貝取)	スペシャリティコーヒーについて、ドリップ実演、実習ほか	尾籠一誠氏(珈琲屋黒子代表)
1月25日(土) 18:00～20:00			
1月26日(日) 14:00～16:00	関戸公民館ギャラリー	講座(人が惹かれる街、カフェの意義など)	飯田美紀氏(カフェ文化・パブリック・ライフ研究家)
2月2日(日) 10:00～16:00	関戸公民館第3学習室	試飲会に向けた作戦会議・自主練習	公民館職員
2月9日(日) 9:00～17:00	市民ロビー(VITAふれあいまつり)	祭り会場で試飲会	

■人 数： 8 人

■まとめ： コーヒーセミナーでは、共通のテーマを持った者同士のため、休憩時間やワークショップの中でも積極的な意見交換が行われた。カフェ学ではサードプレイスやインフォーマル・パブリック・ライフの重要性が講師から説かれ、質疑応答やワークショップではそれに応じた多くの意見交換も行われ、その後の活動に生かすことができた。また、受講者同士の関係

性が深まったことで社会教育団体(サークル)がつくられた。さらに、地域貢献の視点から地域での創業を視野に、経済観光課主催の創業セミナーを受講するケースも見られ、次世代の担い手づくりに寄与した。



3 事業の記録

2. 学校・家庭教育支援事業

子育て支援講座

■目的： 日頃子育てに追われて過ごしている主に育児休暇中の母親や父親を対象に、少し子育てから離れて自分と向き合う“自分時間”の提供および子育てに対する不安や悩みを共有できるつながりづくりを目的に、保育付きでイベントを3回開催した。

■日時： ①10月8日(火) ②11月12日(火) ③12月10日(火) 各日 10:00～11:30

■場所： 永山公民館 集会室

■テーマ(内容)：①パーソナルカラー診断 ②骨格診断 ③アイシェイプ診断

■講師： 一般社団法人パーソナルデザイン協会 副理事長 椿 ありさ氏

■対象： 主に乳幼児を持つ母親・父親(市内在住・在勤優先)

■人数： ①10人(0歳未満同伴参加4人) ②10人(0歳未満同伴参加5人)
③11人(0歳未満同伴参加5人)

■費用： 無料

■まとめ： 参加者同士で交流する場を提供することを目的に保育室(講座終了時～17:00)を開放した。講座終了後は、会場で交流し保育室の利用はなかった。



0歳からのクラシック

■目 的： 幼児と保護者を対象にヴァイオリンとピアノによるコンサートを開催した。生の音楽に触れることによりこどもの情操を養うこと、また、子育て中の保護者にリフレッシュの時間を提供することを目的とした。

■日 時： 2月25日(火) 10:00～11:45

■場 所： 永山公民館ベルブホール

■出 演： 城所 素雅氏(ヴァイオリン)、中川さおり氏(ピアノ)

■対 象： 未就学児とその保護者

■人 数： 165人(大人80人、子ども85人)

■費 用： 無料

■まとめ： 途中にリトミックタイムを設け、ディズニーの曲もまじえるなど、小さな子どもが無理なく楽しめる構成とし、泣いても歩き回っても途中入退場も自由としたため、保護者の満足度も概ね高い。若年層への公民館事業の周知、利用促進の一助ともなった。



保育室開放デー

■目 的： 通常はサークル・団体での利用に限定される保育室を、広く子育て中の親子に利用いただくことにより、子育て中の方々が出会い、互いの交流を図れる場を提供することを目的とした。

■対 象： 未就学児と保護者

■費 用： 無料

<永山公民館>

■日 時： 原則毎月第3月曜日 10:00～16:00（7月・9月は祝日と重なるため第2月曜日に実施）全12回 ※7月8日はイベント開催

■場 所： 永山公民館第1・第2保育室

■人 数： 延べ79名

■まとめ： ランチタイム(12時～13時)を開始。木の積み木など、おもちゃを増やし開放した。

集いの広場(コーディネーター常駐。イベント有)とは異なり、個々のペースで自由に過ごすことを主眼として運営したため、親子でゆったりと楽しむ場が提供できた。

<関戸公民館>

■日 時： 原則毎月第 1・3 水曜日(祝日、休館日を除く) 9:00~16:45(7 月・8 月は毎週水曜日に実施) 全 28 回 ※毎月第 1 水曜日はボランティアによる「赤ちゃんおはなし会」を実施

■場 所： 関戸公民館保育室

■人 数： 延べ 301 人

■まとめ： 地域の読み聞かせボランティアによる「あかちゃんおはなし会」は、本の選定は関戸図書館に行ってもらい、親子で楽しく過ごせる時間を提供できた。

また、保育室開放デーをきっかけに、利用者団体登録をして貸施設利用をする団体も生まれた。公民館の利用促進にもつながった。



↑ 関戸公民館

子育て集いの広場

■目 的： 乳幼児から未就学児までの子育て期の親子を対象に、地域で安心して自由に過ごせる遊びの場、子育てに対する不安や悩みを相談する場を作ることを実施した。

■日 時： 原則第 2・第 4 木曜日 10:00~16:00 全 24 回

■場 所： 永山公民館保育室

■対 象： 未就学児と保護者

■人 数： 延べ 558 人

■費 用： 無料



■まとめ： 2 人以上のコーディネーターが常駐し、親子の安全を見守りながら参加者同士をスムーズに結びつけるよう働きかけ、子育てサポーター的役割を担った。夏は永山公民館の屋上を利用して水遊びをするなどミニイベントも工夫をし、来場のきっかけづくりや来場者の交流の場づくりを行った。

小学生等体験講座

■目 的： 子どもたちの創造性や知的好奇心、意欲を育むきっかけとなることを目的とし、学校とは異なる場の中で、様々な児童、大人と関わる事により視野を広めることを期待し実施した。

■日 時： ①7月30日(火) 10:00～12:00 ②7月31日(水) 13:30～15:30 ③8月2日(金) 10:30～17:00 ④8月6日(火) 13:30～15:30 ⑤8月7日(水) 10:00～11:30 ⑥同日 13:30～15:30 ⑦3月27日(木) 13:30～15:30

※①～⑥は「夏休み小学生向け体験講座」⑦は「春休み小学生向け体験講座」

■場 所： ①永山公民館 集会室 ②③⑥関戸公民館ヴィータホール ④⑤⑦永山公民館ベルブホール

■テーマ(内容)： 科学をはじめ、遊びのきっかけや学習の幅が広がるよう子供たちの創造性を育めるような多種多様な体験講座を準備して、子供たちだけでなく親子で楽しみ学習できる機会とする。

■講 師： ①ぴーちゃん(市民団体) ②テレビ朝日広報局社員 ③ — ④⑥⑦東京大学サイエンスコミュニティサークル CAST ⑤山澤ほなみ氏(エコベル研究会代表)

■対 象： 主に小学生

■人 数： ①5人 ②32人 ③103人 ④81人 ⑤14人 ⑥51人 ⑦87人

■費 用： 一部材料費 500 円程度

■まとめ： お兄さんお姉さんと、楽しみながら科学を学べるサイエンスショーは毎年人気が高く、子ども・保護者ともに満足度は高い。このほかにも市民団体の協力による講座やテレビ局の出前講座の活用など、公民館ならではのユニークな事業が実施できた。



↑テレビ朝日出前講座



↑東京大学サイエンスコミュニティサークル CAST

学校や地域と連携した事業

＜職場体験の受け入れ事業「未来を拓く職場体験」＞

■目 的： 持続可能な社会づくりに向けた人づくりに寄与するために「多様な市民の学習や

活動を支援する公共の拠点施設」として「将来の社会人」である中学生を受け入れた。

■日 時： 9 月～1 月

■場 所： 永山公民館、関戸公民館

■対 象： 永山公民館（鶴牧・諏訪・聖ヶ丘の各中学校）、関戸公民館（多摩・落合・鶴牧の各中学校）

■人 数： 延べ 16 人

■まとめ： 公民館に関する基礎知識をレクチャー後公民館窓口に立ち、利用団体をはじめとする市民の方々への対応等を経験してもらうとともに、施設管理に関する説明、ホール舞台機構の説明や操作体験、事業準備なども経験してもらった。施設の運営にはこのような業務が重要であることを理解してもらうことで、将来の方向性を考える際の一つのヒントとなるよう今後も受け入れを継続していく。

<多摩大学附属聖ヶ丘中学高等学校探求授業への協力>

多摩市が子ども・若者の活躍を支援する視点で協力している多摩大学附属聖ヶ丘中学高等学校探求授業（高校 1 年・2 年）の「探求ゼミ（公民館ゼミ）」に、探求アドバイザーとして永山・関戸両公民館も協力している。公民館の活用拡大につながるフィールドワークや、実際の事業企画・実施に助言・協力を通年行い、学習活動を支援した。

<都立永山高校探求授業への協力>

都立永山高等学校では、1 学年の「総合的な探究の時間」において、地域社会の課題を発見し、その課題の解決する方策を考え調査し、企画書を作る探究活動を実施している。複数のテーマがある中で、多摩市公民館は「生涯学習」のテーマについて、具体的課題の提示、公民館に関する紹介・事前講義、関係資料の提供、生徒の企画書に対する指導・助言などを行い、学校での学習活動を支援した。

家庭教育学級・家庭教育講座・薬物乱用防止講座

■目 的： 子どもたちの豊かな心を育成していくために、保護者や子ども達に対して生活習慣の重要性や子育てに関する知識等を学ぶ機会をつくり、家庭の教育力向上を目指す。また、薬物乱用行為の危険性について学習する機会として主に中学生を対象に同講座を実施した。

■対 象： 保護者・親子・家庭教育に感心のある地域の方

■人 数： 延べ 1,083 人

■費 用： 無料

■日程・内容等

	日時	内容	講師
家庭教育学級			
1	7月4日(木) ※すみれ幼稚園	今の子どもたちのお口のこと身体のこと	大蔵 宏基氏(歯科医師)
2	7月10日(火) ※大松台小学校	お母さんを支える言葉	木村 泰子氏(大阪市立大空小学校初代校長)
3	9月14日(土) ※瓜生小学校	実はこんなにコントロールできる！～心身の発達と栄養のおはなし～	星谷 みよ子氏(栄養療法アドバイザー)
4	9月21日(土) ※多摩第一小学校	いじめをしない・させない・許さないための意識の醸成	橋詰 穰氏(弁護士)
5	11月9日(土) ※東落合小学校	できるかできないかではなく、やるかやらないか	三澤 拓氏(アルペンスキープレーヤー)
6	2月1日(土) ※おだ学園保育園	泣いて笑ってみんなが幸せになる子育て・第二弾	井桁 容子氏(元東京家政大学非常勤講師・保育実践研究家)
7	2月27日(木) ※和田中学校	子どもの育ちと学び	野井 真吾氏(日本体育大学教授)、鹿野 晶子氏(日本体育大学教授)
家庭教育講座			
1	11月30日(土) ※ NPO 法人子育て応援団 そらいろのたね	幼児期からのおうち性教育はじめよう	土屋 麻由美氏(助産師)
2	2月1日(土) ※唐木田児童館 3月1日(土) ※一ノ宮児童館	(父親対象)幼児のための救急救命講座	曾根悦子氏(国士舘大学防災・救急救助総合研究所講師)
3	3月5日(水) ※NPO 法人子育て応援団 そらいろのたね	春の食材でつくる幼児食 食育講座	中屋 優花氏(料理教室 Y'sキッチン・サルーテ主宰)
薬物乱用防止講座			
1	2月27日(木) ※多摩中学校	ビデオ上映「破滅！薬物乱用の恐怖」、薬物の説明と薬物乱用の危険性についての話	古瀬 智之氏(公益財団法人日本健康アカデミー理事長)、古瀬 清華氏(同法人認定講師)
2	3月4日(火) ※聖ヶ丘中学校		

■まとめ：家庭教育学級・講座については、多くの保護者や地域へ家庭教育の課題となるテーマについて学習の機会を提供することができた。一方、学校へより周知し事業を推進していくアプローチとしては、公民館では限界があるのではないかと感じているため、関係所管との協働もしくは所管の移管などの検討が必要と考える。

薬物乱用講座については、卒業後さらに人脈が広がっていく生徒に対して場合によっては今後危険ドラッグに触れる可能性も考えられることから、その場面に直面した際の対処方法などについて学んでほしいという狙いで、在校生を対象に実施したが、公民館としては保護者や地域の方にも参加していただきたい内容であった。



↑ 薬物乱用防止講座の様子

3 事業の記録

3. 市民・時事問題講座事業

市民講座

<やわらか音楽講座>

■目 的：ピアノによる生演奏と解説を交えた講座を開催。市民の一般教養向上を目的とし、レクチャーを含めた講座を実施した。

■日 時：①9月7日(土) ②12月7日(土) ③2月15日(土) 14:00～16:00

■場 所：永山公民館第1音楽室

■テーマ(内容)：①動物編(17曲) ②クリスマス編(14曲) ③旅編(20曲)

■講 師：風呂本佳苗氏（ピアニスト、NHKカルチャーセンター講師）

■対 象：多摩市民(未就学児不可)

■人 数：延べ83人

■費 用：無料

■まとめ：クラシックの枠にとどまらず幅広いジャンルから選曲、耳にする機会の少ない隠れた名曲も取り上げた。単なる音楽鑑賞にとどまらず、受講者の知的好奇心にも応える講座となったと考える。参加者の満足度もおしなべて高く、丁寧で解り易い解説により、音楽を深く理解し楽しい時間を過ごすことができたという声が多数挙がった。



<死別の悲しみとグリーフケア>

■目的： 自死遺族をはじめとする死別遺族の悲嘆(グリーフ)や死別に悲しむ人への共感的な関わり方、死別体験に共感的な地域のあり方への理解を学ぶ機会として、自殺対策事業講座の参加者が発起人となり立ち上げた「グリーフケアたま」という団体と共催で講座を実施した。

■日時： 10月27日(日) 13:30～15:40

■場所： 関戸公民館大会議室

■講師： 島藺進氏(東京大学名誉教授)、岡田圭氏(前ニューヨーク訪問看護サービス・ホスピス緩和ケア)

■対象： 多摩市民

■人数： 70人

■費用： 無料

■まとめ： 自死遺族の方、そのほか、身近な方を亡くされた方も皆さん、とめどない悲しみの中に「これからの自分の生き方、気持ちの整理」を模索している感触があった。悲しみを自分のなかにどう捉えるのか、どう整理して自分の気持ちを表現していくのか、今回の講演をきっかけに、今後の「グリーフサポートたま」への公民館として継続したサポート活動を支援していければと考える。



↑ 図書館協力: 関連書籍の展示



地球大学院

■目的： 現代社会における変化は加速度的に進んでおり、それによって生じる、経済・文化・福祉などを取り巻く課題がより複雑化・多様化している。そのような社会において、市民

の自己実現を支えるためには、様々な分野に関する学びの機会を確保していくことが重要である。

そこで、多摩市内にキャンパスを置く6大学(大妻女子大学、多摩大学、恵泉女学園大学、国士舘大学、東京医療学院大学、桜美林大学)にご協力いただき、それぞれの大学の特性を活かした専門性の高い講座を提供することにより、市民の多様な学びの機会を保障し、自己実現に寄与することを目指した。また、講座はオンラインでの受講が可能とした。

■日 時:【第1部】①8月18日(日) 14:00~16:00、②8月21日(水) 10:00~12:00

【第2部】①10月24日(木)、②10月25日(金)、③11月5日(火)、

④11月12日(火)、⑤11月27日(水) ※時間はいずれも14:00~16:00

■場 所:【第1部】①関戸公民館 ギャラリー・第3学習室(ライブビューイング)②関戸公民館 大会議室 【第2部】①②⑤関戸公民館 大会議室、③④永山公民館視聴覚室

■テーマ(内容)

	内 容	講 師
1 部		
①	ロシアからみたウクライナ問題	小林昭菜氏(多摩大学准教授)
②	イスラエル、パレスチナへの想いームバラクスキームによる農業支援から18年ー	澤登早苗氏(恵泉女学園大学名誉教授)
2 部		
①	「生き甲斐」とは?ー翼をたたんだCAのキャリアウェルビーイングー	尾川佳子氏(桜美林大学准教授)
②	「ことば(聞く、話す、読む、書く)」の発達について	青木さつき氏(東京医療学院大学講師)
③	「投げない柔道」柔道けんこう体操~日常の動作やスポーツ活動時の姿勢保持に必要な筋の緊張~	森脇保彦氏(国士舘大学名誉教授)
④	データサイエンスと医療・健康情報科学の進展	新井崇弘氏(多摩大学専任講師)
⑤	子どもや孫への歌いかけが育む豊かな心	春日文氏(大妻女子大学専任講師)

■対 象: 多摩市民及び日野市民(日野市・多摩市連携事業)

■人 数: 延べ96人

■費 用: 無料

■まとめ: 会場での対面受講とZoomウェビナーを用いたオンライン配信を同時に行ったが、若年層にとどまらず高齢者にもオンライン受講が浸透していた。また、1部は紛争と国際情勢にテーマを絞り、2部は多様なジャンルでのテーマ設定と2部構成を試み、受講者の選択肢

を広げることができた。一方、詳細な事業周知の不足により昨年度より参加者が少なかったことは課題であり、情報発信の方法含め検討が必要であると感じた。



郷土・伝承文化事業

<はじめての茶の湯>

■目的：接する機会が少なく、敬遠しがちな「茶の湯」を気軽に体験することで、「茶の湯」をより身近に感じ、関心を持つ市民を増やすとともに、当館の「茶室」を周知し、有効利用を促すことを目的として実施した。また、講座終了後は、当館で開催されている多摩市茶道連盟主催の「月釜」へ繋げることで、継続的に「茶道」に触れる機会を提供する機会の提供とした。

■日時：2月15日・22日 各(土) 10:00~12:00

■場所：関戸公民館 茶室・和室

■講師：多摩市茶道連盟会長及び会員(計7人)

■対象：どなたでも(但し、高校生以上の茶道経験のない方を優先とする)

■人数：延べ25人

■費用：無料

■まとめ：全員が初めての参加者(男性は1名)であった。茶の湯の歴史、流派について、茶菓子の種類、お茶をたてる指導、茶室見学の際の説明など短時間の中で効率よく講座を運営していただいた。参加者のほぼ全員が満足しており、茶の湯に関心が深まった方、月釜に参加したいと思った方、茶道を習いたいと思った方、さらに学びを深めたいと思った方など、本講座が参加者の行動変容につながり、事業の目的はおおむね達成できたと考える。



障がい者青年教室

■目 的：主に軽度の知的障がいがある青年たちの余暇活動の場として開催。創作・文化活動、スポーツ、野外活動等を通して、障がいがある方たちがボランティアと楽しく交流していく中で、他者との関わりや自立する力、お互いを認め合う共生の心などを学ぶ機会とした。

■日 時：5月26日、6月23日、7月21日、9月8日、10月20日、11月17日、12月15日、2月9日、3月9日 全9回 日曜日の10:00～12:00、または13:00～15:00

■場 所：永山公民館(集会室・ベルブホール)、総合体育館、近隣ボウリング場など

■講 師：鈴木美耶子氏(青年教室ボランティア、元美術教師)、ベルブ・プラス・バンド、Forever(バンド)、多摩市スポーツ推進員

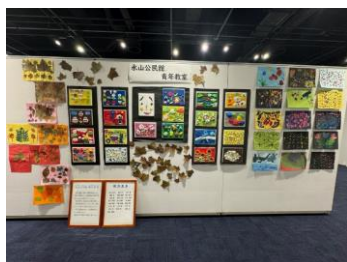
■対 象：主に軽度の知的障がいがある18歳以上の市民

■人 数：延べ 青年157人、ボランティア81人

■費 用：無料

■まとめ：創作活動・戸外活動・お楽しみ会・スポーツ大会を実施し、参加している青年同士の余暇活動のサポートをボランティアの協力を得ながら行った。特に創作活動では自由な発想で臨んでおり、自己表現できる場を今後も提供し続ける必要があると感じている。

一方、参加者の固定化・高年齢化、ボランティアの減少・高齢化が重要な課題となっており、青年・ボランティアともにたま広報等で新規募集を行いながら、他市の類似事業なども参考に課題解決に向け検討を進めていきたい。



スマートフォン関連事業

■目 的：令和2年度からデジタル活用技術の習得を促し、技術格差の解消を目的に、主に高齢者を対象とした講座を実施しており、令和6年度も以下3つの事業を行った。また、東京都の取り組みとして、行政手続きのデジタル化の推進と共に、誰一人取り残すことのないデジタル社会の形成を目的とした「東京都事業 高齢者スマートフォン普及啓発事業」であるスマホ相談会も共催事業として継続して実施している。

※高齢支援課主催のスマートフォン普及啓発事業を高齢支援課と共催開催(会場提供協力)

①(初心者向け個別サポート)スマホサロン～スマホでつながる 遠くの家族と近くの友達～

- 日 時： 令和 6 年 4 月 19 日(金)・6 月 21 日(金)・8 月 16 日(金)(台風接近により中止)・10 月 18 日(金)・12 月 20 日(金)・令和 7 年 2 月 21 日(金)、各日 14:00～16:00
- 場 所： 関戸公民館 創作室
- 内 容： 市民を対象としたスマホの基本操作について学び、個別サポート
- 講 師： パソコンボランティア多摩、帝京大学ボランティアサークルあめんぼ～ず、市民ボランティア
- 対 象： スマートフォンの基本操作を学びたい市民
- 人 数： 計 85 人
- 費 用： 無料

②公民館スマホ教室～音声検索や地図アプリを使って場所の検索などを学ぶ体験編～

- 日 時： 令和 6 年 4 月 12 日(金)・5 月 17 日(金)・6 月 14 日(金)・7 月 12 日(金)・8 月 16 日(金)(台風接近により中止)・9 月 6 日(金)・10 月 18 日(金)・11 月 15 日(金)・12 月 13 日(金)・令和 7 年 1 月 17 日(金)・2 月 14 日(金)・3 月 14 日(金)、各日 14:00～16:00
- 場 所： 永山公民館 視聴覚室
- 内 容： 基本操作の技術指導、音声検索、地図検索など
- 講 師： 松井貴光氏、室井里加子氏(ドコモショップグリナード永山店)
- 対 象： 市内在住・在勤者
- 人 数： 計 98 人
- 費 用： 無料

③東京都スマホ相談会(東京都事業 高齢者スマートフォン普及啓発事業)

- 内 容： スマートフォンの使い方や操作方法に関する疑問や不安解消のための個別相談会
- 講 師： 東京都派遣講師
- 対 象： 60 歳以上の都民
- 費 用： 無料

<永山公民館(ギャラリー)>

- 日 時： 令和 6 年 6 月 19 日(水)・12 月 3 日(火)・令和 7 年 2 月 19 日(水)・3 月 3 日(月)(高齢支援課共催)、各日 10:00～12:00、13:00～16:00(2 部制)
- 人 数： 63 人
- 費 用： 無料

<関戸公民館(創作室)>

- 日 時： 令和 6 年 7 月 12 日(金)・9 月 13 日(金)・11 月 8 日(金)・12 月 4 日(水)(高齢支援課共催)・令和 7 年 1 月 10 日(金)・3 月 14 日(金)
- 人 数： 計 92 人

■まとめ(①～③)： 一部講座においてはボランティアの対応が参加者から好評で、複数回参加している参加者も目立った。個人の疑問や悩みを解消する相談会、テーマ別にセミナー形式で行う講座と、異なる形式で事業を実施していることも参加者獲得につながった要因の

1 つと考えられる。市内各公共施設で同様の事業が実施されているが、居住地に近く、高齢者が気軽に参加できる事業として引き続き実施していきたい。



↑スマホサロン(関戸)



↑スマホ教室(永山)

3 事業の記録

4. 地域活性化事業

第 25 回 永山フェスティバル

■目 的： この事業は、永山駅周辺の活性化と地域住民、市民団体等の交流促進や施設間同士の連携、元気な街づくりを目的に、永山公民館と永山駅に隣接する商業施設を会場として、市民・行政・民間事業者の協働により実施した。

■日 時： 9 月 21 日(土)・22 日(日)

■場 所： グリナード永山・ヒューマックスパビリオン永山・ベルブ永山等

■内 容： 屋内外ステージでの音楽・舞踊などのパフォーマンス、ベルブ永山公民館内とグリナード永山での体験コーナーや展示・コンサート、模擬店など

■人 数： 50,389 人(各会場での来場者の延べ合計)

■まとめ： 子どもから高齢者まで楽しめるプログラムが開催され、飲食については多くの団体が模擬店を出店し、イベントを盛り上げる一助となった。また、エコフレンドリー協力のもと、リユース食器の積極的な活用を呼び掛け、環境に配慮した飲食提供ができた。子どもたちを中心に楽しんでもらえる縁日コーナーやフリーマーケットも好評であった。一方で、ベルブ・グリナード・ヒューマックスパビリオンの離れた 3 会場の一体感を表現することが難しく、引き続き今後に向けての課題として挙がっている。



↑グリナード広場



↑うえるかむステージ



↑プレゴ前ステージ

第3回 VITA ふれあいまつり

■目的： 関戸公民館が中心となり、多摩市や周辺地域で活動している市民・団体同士が、交流を通してネットワーク化を促進するとともに、それぞれの活動が発展する機会を創出し、聖蹟桜ヶ丘駅周辺の活性化に寄与することを目的に開催した。

■日時： 2月9日(日) 10:00～18:00

■場所： 関戸公民館、ヴィータコミュニェさくら広場

■参加団体： 延べ37団体

■人数： 延べ2,596人

■費用： 無料

■まとめ： 従来の音楽・ダンス等の発表の場としても催しに加え、新たに市民団体相互・市民との交流を主目的とした団体紹介ブースを設置し、11団体の参加があった。PRの不足もあり団体紹介ブースに人が押し寄せるという状況には至らなかった。一方、体験会では予想以上の参加者があった団体もあった。次回にはPR手法の工夫などを行っていく。



↑市民ロビー



↑ヴィータホール



↑団体紹介ブース

地域イベント協力事業

■目的： 各公民館の周辺地区の活性化を図る事業を、関係所管・団体、民間商業施設、市民団体等との協働により実施することで、まちの賑わいとともにより地域づくりに寄与することを目的に諸事業を実施した。

<永山公民館>

①こいのぼり掲揚

■日程： 4月18日(木)～5月16日(木)

■内容： 館内談話コーナー及び保育室前通路に大型こいのぼりを掲揚し、子どもの日に向けた季節感を醸し出した。

②イルミネーション

■日程： 11月2日(土)～2月14日(金)

■内容： 隣接する事業所の屋上広場とともに、永山公民館のテラスにかけてクリスマスイ

ルミネーションを装飾し、地域の賑わいづくりに貢献した。

<関戸公民館>

①第43回せいせき桜まつり協力企画

■日 時：4月7日(日)

■場所・内容・人数：下表のとおり

場所	内容	出演・協力	人数
市民ロビー	音楽の玉手箱(サクソとピアノ)	スタジオアデリーの仲間たち	100人
市民ロビー	おもちゃ病院	おもちゃ病院 kebo	36件
大会議室	あさがお寄席	多摩落語寝床の会	90人
茶室	茶室見学	多摩市茶道連盟	36人

■対 象：どなたでも

■費 用：無料

■まとめ：地域の活性化と公民館の周知を目的としているため、不特定多数の方を対象に気軽に来ていただけるような内容の事業を実施。コロナ禍を経ての飲食を含む完全開催となった桜まつりは想定を超える人出で、関戸公民館にもまつり実行委員会の催しものを含め、多くの方に来館いただき、事業の目標は達成でたものとする。

②せいせき朝顔市協力企画

■日 時：7月6日(土)・7日(日)

■場所・時間・内容：別表

場所	内容	出演・協力	人数
6日			
市民ロビー	おもちゃ病院	おもちゃ病院 kebo	15件
ヴィータホール	オールディーズ・ライブ	ザ・ドロシーズ	196人
7日			
市民ロビー	津軽三味線二人会	澤田勝邦ほか	90人
大会議室	あさがお寄席	多摩落語寝床の会	73人
※6月25日(火)～6月30日(日) アイスランド写真展(文化・生涯学習推進課共催)			

■対 象：どなたでも

■費 用：無料

■まとめ：ホールでのコンサートや寄席は恒例化しており好評かつ安定した参加者数。今年度はプロの津軽三味線演奏者のライブを市民ロビーで初めて実施。初めて来館した方も見受けられた。総じて朝顔市を盛り上げ、認知度も向上することができたとする。



↑ さくら寄席



↑ ホールコンサート



↑ ロビー(津軽三味線)

< 関戸駅開業 100 周年事業 >

■目的： 聖蹟桜ヶ丘駅(旧関戸駅)は 2025 年(令和 7 年)3 月 24 日に開業 100 周年を迎える。「聖蹟桜ヶ丘駅」という名称は 1937 年(昭和 12 年)から使われており、開業当時から改称するまでの間は「関戸駅」であった。このことを記念し、京王電鉄株式会社、多摩市企画課、秘書広報課、公民館の 4 者で連携し、特別企画を行った。

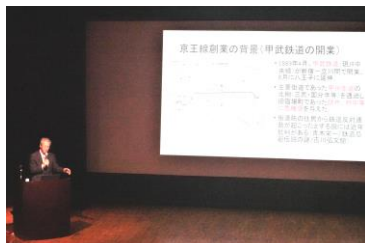
■日程・内容・人数

日程	場所	内容	人数
3 月 29 日(土)	ヴィータホール	専修大学経済学部教授永江雅和氏 講演「なぜ関戸駅は作られたのか～ 京王沿線の近現代史を探る～」	117 人
3 月 24 日(月) ～4 月 6 日(日)	関戸公民館ギャラリー 一、京王聖蹟桜ヶ丘 ショッピングセンター	・駅から始まる「まちのものがたり」 ・関戸・聖蹟 100 年今昔展覧会	1,060 人
3 月 29 日(土)	市民ロビー	「電車っ子 Party&Books」(ミニ電 車乗車、電車の本プレゼントなど)	70 人

■対 象： どなたでも

■費 用： 無料(電車っ子 party は一部有料)

■まとめ： 講演会は反響が大きかったことから、会場をヴィータホールに変更し、定員を拡大して実施。経済学の視点から鉄道の歴史を解いていく講演内容が好評であった。特別展示も、関戸公民館ギャラリー・京王聖蹟桜ヶ丘ショッピングセンターの 2 ヶ所で開催し、貴重な写真や歴史的資料の展示が大変好評であった。「電車っ子 Party」は地域ボランティアに協力してもらい、親子で楽しんでもらうことができ、家族同士の交流の場を提供にも寄与した。



↑ 講演会



↑ ギャラリー

施設等活用事業

<関戸公民館市民ロビー等活用事業>

■目 的： 市民団体等が主体となって実施するコンサートや催事を通して、聖蹟桜ヶ丘周辺地域の賑わいづくりや地域活性化、関戸公民館の認知度向上、市民ロビーの有効的な活用の促進に寄与するとともに、来館者の学習機会及び学習活動の充実を図ることを目的として実施。（一部公民館主催事業あり）

■対 象： どなたでも

■日程・内容・人数

日 程	内 容	人数
7月21日(日)	ロビーコンサート(☆レイドバック☆)	40人
8月8日(木)	TIC ワールドキャンパス交流会	100人
8月11日(日)	ロビーコンサート(東京多摩少年少女合唱団)	50人
8月24日(土)	文化団体連合夏祭り	230人
8月23日(金)～2月28日(金)	BORDERFREE 勉強会	121人
10月20日(日)	TIC 市民文化祭参加事業 スピーチ発表会	90人
10月24日(木)～27日(日)	多摩市民文化祭(和紙人形連盟)	500人
12月13日(金)～14日(土)	第2回スターライトバルコニーin 関戸	265人
12月22日(日)	多摩テュッティ弦楽合奏団 クリスマスランチコンサート	50人
2月15日(土)	カワマチシンポジウム交流会	77人
3月1日(土)・2日(日)	ふれあいこどもまつり「あそぼう！体験しよう！」コーナー	281人
3月7日(金)	きて！みて！つながって！たまボラ・テラス～多摩ボラセンのボランティア見本市～	113人
3月23日(日)	ロビーコンサート(東京薬科大学合唱団)	20人
3月30日(日)	デジログ運動会	38人

■費用： 無し

■まとめ： 市民団体等から問い合わせを受けた内容を積極的に実施していくことで、多くの団体の催しを行うことができ、公民館の賑わいづくりや周知につながった。また、公民館主催事業として行った、スターライトバルコニーやデジログ運動会では閉鎖的なイベントにならないよう工夫を凝らした。本事業は、気軽に立ち寄った方にも学びを届けることが出来るという特性があり、日常利用とのバランスを取りながら今後も継続して実施していく。



↑ スターライトコンサート



↑ カワマチシンポジウム



↑ デジログ運動会

3

事業の記録

5. 市民文化活動支援事業

サロンライトコンサート

■目 的： 地域で気軽に生の音楽を演奏、鑑賞する機会を提供し、市民の文化余暇活動発展、心身の健康増進の一助となることを目的として実施した。

■日 時： 定例コンサート/原則 6 月～3 月の第 2 土曜日 15:00～16:15 ※9 月を除く。
スペシャルコンサート/ 5 月 25 日(土) 15:00～16:20(「歌とピアノで巡る日本と世界」)

■場 所： 永山公民館 ベルブホール

■出演者： 定例コンサート＝応募者から決定。

スペシャルコンサート(プロ奏者を招いて開催)＝〔佐藤 健太 (バリトン歌手)、田邊 紗世 (ピアニスト)〕

■対 象： 出演者＝市内外団体または個人(応募により決定)、来場者＝市内在住者優先(未就学児不可)

■人 数： 出演団体数＝18 団体(うち初出演 10 団体)、来場者＝1,232 人

■まとめ： 市民演奏家へ発表の場を設けると共に、市民が地域で気軽に生の音楽を鑑賞できる機会を提供した。プロ奏者を招いてのスペシャルコンサートを 1 回、一般募集での出演者による定例コンサートを 9 回開催。リピーターも多く、毎回多数の市民が来場されている。出演者と観客が同じ空間で音楽を共有し楽しむという、アットホームなコンサートの開催ができたと考える。



第 34 回映画祭 TAMA CINEMA FORUM

■目 的： 映画ファンを中心とした市民ボランティアがつつどい、TAMA映画フォーラム実行委員会を主催している「映画祭 TAMA CINEMA FORUM」を、継続して支援していくことで、市民の参加を促し交流が広がり、多摩市の映像文化の発展とともに、まちづくりに寄与することを目的として実施した。

■日 時： 令和 6 年 4 月～令和 7 年 3 月〔映画祭＝11 月 16 日～12 月 1 日のうち 9 日間(休映日を含む)、特別上映会＝2 月・3 月・5 月・6 月・7 月・8 月(全 6 回)〕

■場 所： 永山公民館ベルブホール、関戸公民館ヴィータホール、パルテノン多摩

■対 象： どなたでも

■人 数： 映画祭 10,171 人(33 本)、TAMA NEW WAVE(応募 183 本)、特別上映会 1,751 人(6 本)

■費 用： 各回の入場料設定あり

■まとめ： 市制施行 20 周年記念事業として始まった映画祭も 34 回を迎え、この間 実行委員会は、映画を媒体として多くの市民が主体的につつどい、映画祭を企画・開催する中で、私たちの“まち多摩”の“まちづくり”を目指してきた。公民館はこうした市民の継続した活動を支援していく中で、公民館ならではの人と人との交流とともに、作り手と観客との対話の場を大切にしながら、実行委員会とともに映像文化の振興とまちづくりに貢献できた。(画像は授賞式の記念写真)



多摩演劇フェスティバル

■目 的： 市民主体の実行委員会が自ら企画・公演する演劇事業を支援し、広く市民に周知することで鑑賞を通じて楽しんでもらい、事業への理解を深めること及び各劇団の更なる発展を目的として実施した。

■日程・内容・人数

日 程	公演劇団・演目	場 所	人 数
6 月 15 日(土)・16(日)	劇団ドラマ館 『太宰治を読む-桜桃忌によせて-』	ベルブホール	173 人

7月13日(土)・14日(日)	不等辺さんかく劇団 『背中のイジン』	ヴィータホール	307人
8月31日(土)・9月1日(日)	帝京大学演劇部ヴィクセンズシアター 『悪い子達の管理人』	ヴィータホール	70人
10月19日(土)・20日(日)	多摩演劇フェスティバル 35周年記念 合同公演 『時計ネコをつかまえろ!』	ヴィータホール	295人
12月22日(日)	お芝居の工房ちゃとらん 『あつし先生と沙悟浄のわが西遊記』	ヴィータホール	76人
3月1日(土)、2日(日)	TAGWEAP(帝京大学 アクションクラブ) 『歪形-いびつなりー』	ベルブホール	132人
3月22日(土)、23日(日)	劇団 MarchWind 『夜の来訪者』	ヴィータホール	229人
合計			1,282人

※上記公演のほか、35周年記念関連企画として『たまには歩いて芝居ワークショップ』を実施。動画コンテンツ「演フェスラジオ・楽屋放浪記シーズン 4・5」の制作と YouTube での配信。多摩演劇フェスティバル広報誌「たまには芝居」を偶数月、発行。・12 月に選挙管理委員会事務局の依頼により、市内中学校(諏訪中)での主権者教育の授業に候補者役として、参加。VITA ふれあいまつりで活動展示。

■まとめ： 公演の際は受け付けや仕込みなど他劇団が担当するなど、団体間での交流は行われている。特に今年度は35周年を迎えることから、所属する10劇団が何らかの形で関わり、合同公演・ワークショップを実施したことで、相互交流のさらなる挑戦につなげることができ、各劇団の発展のための学びや刺激になった様子だった。今後も、広報活動の協力や会場の確保、舞台増員の手配などを通して、活動を支援していく。



ヴィータ・コンサート

■目的： 地域で音楽活動している団体・個人、これから活動しようとしている音楽家に演奏の場を提供し、良質な音楽事業を展開するとともに、幅広い年齢の市民の方に気軽に音楽

を楽しんでいただく機会を提供した。

また、本事業は市民主体の実行委員会が企画及び運営を行うことにより、市民の自主的な企画制作、運営などの機会を促し、市民団体育成にも寄与することを目指し実施した。

■日 時： 原則、隔月第 4 金曜日 14:00～16:00

■場 所： 関戸公民館ヴィータホール

■出演者： 応募者から決定。

■対 象： 出演者＝市内外団体または個人(応募により決定)、来場者＝どなたでも

■人 数： 出演団体数＝6 組(うち初出演 5 組)、来場者＝1,026 人

日 時	出演者	演 目	人数
4 月 26 日(金) 14:00 - 16:00	塩谷 遥 氏	ピアノ ソロ	175 人
6 月 29 日(土) 15:00 - 17:00	多摩シティオペラ	オペラ寄席	227 人
8 月 23 日(金) 19:00 - 21:00	Pedestrianz (ペDESTリアンズ)	ハーモニカバンド	76 人
10 月 25 日(金) 14:00 - 16:00	山下 隆三 氏	ピアノ ソロ	158 人
12 月 13 日(金) 14:00 - 16:00	唐木 千咲 氏	ピアノ ソロ(クラシック・ジャズ)	160 人
3 月 28 日(金) 14:00 - 16:00	サンライズバンド&澤田 勝邦 氏	①セクステッド(6 人編成)ジャズ ②津軽三味線	230 人
計			1,026 人

■まとめ： 実行委員会が企画～運営まで実施しており、実行委員は無償で活動。出演者についても、地域で音楽活動している、またはこれから活動しようとしている音楽家(アマチュア)に演奏の場を提供するという趣旨から、無償。長く公民館の事業として定着しており、また、様々なジャンルの音楽が楽しめることから好評。実行委員会から周辺の音大や、大学の音楽サークルが出演する特別枠を設けてはどうかと提案があり、実施を検討している。



ジャズへの招待 What's JAZZ

■目的： ジャズの歴史や音楽に関する知識を学ぶとともに、プロによる演奏を鑑賞する機会を通して、市民の文化・芸術に関する学習活動に寄与することを目的に実施。また、本事業は市民主体の実行委員会が企画及び運営を行うことにより、市民の自主的な企画制作、運営などの機会を促し、市民団体育成にも寄与することを目指して実施した。

■日程・内容・人数

日 時	演 目	人 数
6 月 7 日(金) ①13:00 ②16:00	ジャズへの招待 vol.68 ジャズバイオリンが奏でる流麗なジャズ	275 人
9 月 13 日(金) ①13:00 ②16:00	ジャズへの招待 vol.69 秋に似合う男性シンガーによる名曲コンサート	230 人
12 月 6 日(金) ①11:30 ②13:15 ③15:00	ジャズへの招待 vol.70 70 回記念 ビッグバンドによる華麗なる演奏	347 人
3 月 14 日(金) ①13:00 ②15:30	ジャズへの招待 vol.71 ～カーメン・キャバレロ／ベニー・グッドマン	269 人
計		1,121 人

■場 所： 関戸公民館ヴィータホール

■出 演： スインギー奥田(ドラマー・音楽プロデューサー)ほか

■費 用： 1 公演 2,000 円(出演者・構成により変更する場合あり)

■まとめ： 2005 年から開始。実行委員会が中心となり、年 4 回の公演を実施。12 月には第 70 回公演という節目を迎え、ビッグバンドによる 3 ステージという記念公演を開催することができた。今後の課題としては、実行委員会の世代交代・なり手不足について、持続可能な運営の可能性や今後のあり方について実行委員会と共に検討していく必要がある。



3

事業の記録

6. 情報発信事業

公民館通信「たのしいまち」の発行

■目的：市民と公民館、市民と市民をつなぐ架け橋として地域の情報を取り上げて取材・インタビューしている。編集には、市民編集委員とともに、市民目線に立ち読み物として読みやすく、楽しい紙面づくりを目標に継続した発行をしていくことを目指し実施した。

■発行：通年(年6回隔月発行)

■編集会議：月2回程度(取材を含む)

■テーマ(内容)：各号、編集会議にて、その時々タイムリーな話題などを取り上げ、実際に現地や講座などに出むいてその様子を広く紙面で提供した。

■対象：どなたでも

■発行部数：12,000部(各号2,000部)、庁内印刷

■まとめ：公民館の施設・事業紹介等を通じて、公民館のPRに努めた。市民編集委員執筆のレポートや、インタビュー記事は、読者の興味を引き立てるような紙面校正や紙面になるよう編集委員とともに、工夫。市民編集委員の人材不足と継続が課題となっている。



広報・公式ホームページ等での情報提供

■目的・まとめ：事業案内・募集などの情報を広く周知するため、たま広報や公式ホームページ、公式 SNS で発信している。このほか独自の広報紙として「永山公民館からのご案内」「関戸公民館からのお知らせ」をそれぞれ年12回発行。市内公共施設に配架。このことにより事業の集客・来館に結び付けた。

サークル紹介カード

■目的・まとめ：公民館施設利用団体の活動支援の一環として実施。公民館サークル紹介カード(サークル名、連絡先、活動日・場所、サークル PR 等)により掲示および問合せの対応を行った。活動を希望する方へ、即自に情報提供をすることができた。

【永山 56 団体】【関戸 54 団体】

3

事業の記録

7. その他連携等事業

日野市・多摩市の「多様な学びの場構築連携事業」 ひのたまULTLAプログラム

■目的・まとめ：「多摩・島しょ広域連携活動助成」を受け、学校生活や学習になじめない子どもたちが自分自身を掴み、その能力を発揮できる学びの場づくりにより市民暮らしを豊かにする事業を日野市と連携して実施する。今年度は、日野市・多摩市それぞれの事業運営者であるコアメンバーの決定やコアメンバーによる地域資源の発掘に係るワークショップ、先行自治体(鎌倉市)で行ったプログラムへの練習参加、具体的な事業の検討、ホームページの検討などを行い、令和 7 年度からの事業実施に向けて準備を実施した。両市で様々な分野で活動をしている市民がコアメンバーになり、積極的に関わっていただいている。引き続き運営会議など密に行いながら、子どもたちのサードプレイス作りにつながる事業実施に向け検討していく。

都民寄席

■目 的：東京都との連携により都民寄席を実施し、市民及び近隣の都民の文化イベントを実施した。

■日 時：1月25日(土) 13:30~15:00

■場 所：関戸公民館ヴィータホール

■出 演：中川 桂(解説)、前座(落語)、三遊亭わん丈(落語)、ダーク弘和(奇術)、三遊亭遊雀(落語)

■対 象：都民

■人 数：178人

■費 用：無料

■まとめ：都民芸術フェスティバル参加公演として行われる都民寄席であるが、多摩公演は9倍の倍率で、全8公演(23区内6会場、26市内2会場)で最高の倍率であった(当日約1割が未来場)。市民の当選率は40%であったことから、市外からの来場者が過半数であり、公民館の周知拡大に有効であったと考える。

テレビ朝日出前講座

■目 的：近年、日本各地で地震や大雨等の災害が多発している。そこで、防災情報の基礎知識を学ぶことで、災害への備えについて改めて考えてもらえる機会とした。

- 日 時： 6 月 15 日(土) 13 時 30 分～15 時 30 分
- 場 所： 永山公民館視聴覚室
- テーマ(内容)： 災害報道とテレビ～命を守る防災情報の受け止め方～
- 講 師： 株式会社テレビ朝日広報部お客様フロント係・防災士 久慈 省平 氏
- 対 象： 多摩市民
- 人 数： 31 人
- 費 用： 無料

■まとめ： 多摩市の今後の防災課題についても講義をしていただき、各家庭でどのような防災対策を行えばよいかアドバイスをいただいた。講義内容はタイムリーで、どのような視点で災害を報道するか、という元テレビ局の社会部記者、報道番組ディレクターならではの視点と、防災士としての視点での分かりやすい内容で、参加者の満足度は高かった。

わがまち学習講座

■目 的： 地域活動の担い手となりうる次世代層をターゲットとして、市の現状の課題に触れ地域への関心をもってもらうことで、地域共生社会の実現を目指す事業を、文化・生涯学習推進課、協創推進室と 3 課連携で実施した。

- 日 時： 12 月 1 日(日)・14 日(土)・21 日(土)
- 場 所： 関戸公民館大会議室
- テーマ(内容)： 「多摩市の魅力ハッケン隊」として、参加者自身が好きな多摩市の日常や場所を共有し合い、それを多摩市の魅力としてマップにまとめる。
- 講 師： 荒井 菜彩季 氏、 椎名 英治 氏(合同会社 LOCUS BRIDGE)
- 対 象： 多摩市民
- 人 数： 延べ 14 人
- 費 用： 無料

■まとめ： 少人数での参加となったが、講師と参加者で密接なコミュニケーションが取れたことにより、参加者の満足度は高かった。成果物として、見開き冊子の地図「これたま MAP」を 500 部発行し、各公共施設や MAP 内で紹介されている店舗等に配布した。今後の課題としては、一定の参加者数を確保するために、講座の周知・宣伝方法の改善や、関心を持ってもらえるテーマ選定などに取り組む必要がある。また、過去の講座参加者の中でも、引き続きわがまち学習講座に関わりたいという意見もあることから、今後の講座の展開における、過去の参加者の関わり方についても引き続き検討していく必要がある。

東京都 子どものデジタル体験事業

■目 的：東京都共催。今後のデジタル社会を担っていく小中学生が、誰でも気軽に、創造性を育むことができる「デジタル創作体験」の機会を広げることを目的に実施。

■日 時：1月18日(土)・25日(土)

■場 所：関戸公民館創作室

■テーマ(内容)：オリジナルゲームのプログラミングと音楽制作(アレンジ・作曲)、オルゴール作り、センサーを使った電子工作

■講 師：株式会社リトプラ

■対 象：都内在住または在学の小中学生

■人 数：22人

■費 用：無料

■まとめ：東京都と共催事業。定員22人に対し56人の申し込みがあったことから、市民の関心・ニーズが高い事業であったことが伺える。このような事業は、機材手配や技術指導ができる人員確保などのハードルが高く、公民館独自で実施することは困難であることから、このような機会を捉えながら実施していくことが望ましいと考える。令和7年度は関戸公民館で1回を予定していたが、東京都からの要請で4回実施する予定。



令和6年度認知症講座「あしたの会」(高齢支援課共催)

■目 的：認知症の本人・家族などから認知症を受け止める心情や生活上の変化などを語ることで、認知症の方を地域全体で支えるしくみづくりを行っている。「若年性認知症」をテーマとし、本人・家族にとどまらず、より多くの方へ若年性認知症に対する理解を促し、関心を深め、学びの場の提供を目的に実施した。

■日 時：9月28日(土) 13:00～16:00

■場 所：関戸公民館ヴィータホール

■テーマ(内容)：認知症とともに生きること～若年性認知症から考える～

■講 師：丹野智文氏(当事者)、みらいの会(認知症当事者会)、いこいの会(認知症介護者会)、来島みのり氏(ファシリテーター、東京都多摩若年性認知症総合支援センター所長)

■対 象： 多摩市民

■人 数： 1 部（映画上映「オレンジランプ」） 延べ 190 人、第 2 部（講演） 延べ 164 人

■費 用： 無料

■まとめ： 映画の上映があったことで、参加のハードル低くなり、映画の主人公モデルになった丹野氏が登壇したことで、認知症当事者とその介護支援者を交えたトーク時間は、より認知症啓発の効果が高まり、多くの方に認知症について学ぶ機会となり自分のこととして関心度が高まった。



ゼロから始めるマネーセミナー（アクサ生命株式会社共催）

■目 的： 年金に対して、自助努力が必要と言われている中、20～30 代のターゲット層に資産形成に関する学習の機会を提供することを目的として実施した。

■日 時： ①11 月 16 日(土) ②11 月 23 日(祝)

■場 所： ①永山公民館視聴覚室 ②関戸公民館大会議室

■テーマ(内容)：投資が推奨されている背景、NISA・iDeCo などの資産形成

■講 師： 池田 翔(ファイナンシャルプランナー)

■対 象： おおむね 20～30 代の市民

■人 数： ①5 人 ②17 人

■費 用： 無料



■まとめ： 次年度以降の「民間機関等企画提案型講座」の試行として実施。事業者側の周知方法としてポスティングも行ったが、永山公民館での開催については、土曜日午後開催にしたものの参加者が少なかった。参加者層としては当初のターゲット(20 代～30 代)よりも少し高く 40 代～50 代であったが、参加者からは「初心者向けでわかりやすかった」「将来に向けた資金運用の必要性が理解できた」と好評であった。一方同様の講座やセミナーを企業が独自で開催しているケースも多く、iDeCo や NISA に関する情報は昨今 WEB や書籍などから多く得られる状況もあり、テーマ設定などに課題が残った。

新郎新婦の入場です(NPO 法人多摩子ども劇場共催)

■目 的： 子どもたちに、地域で本物の芸術文化にふれる機会を作っていくことを目的として、作品の選定から運営・企画まで団体のもっている特性を活かした事業を公民館の共催事

業として開催。

■日 時： 3 月 16 日(日) 13:30～15:30

■場 所： 永山公民館ベルブホール

■テーマ(内容)： スタンダップコメディ(マイク 1 本で観客を巻き込みながらストーリーを展開していく)

■出 演： ヤノミ氏(小心ズ)

■対 象： 多摩子ども劇場の会員および一般

■人 数： 84 人

■費 用： 無料

■まとめ： 作品候補の中から、要望の多かった演目を選定して実施した。演目を通して子どもたちの交流機会が生まれたとともに、結婚式というテーマを通して、日常生活では経験し難い、祝儀のしきたりやテーブルマナーなども学ぶ機会にもつながったと好評であった。

こどものまちたま(チームミニたま共催)

■目 的： 市民団体との共催。子どもたちだけで「仮想のまち」をつくり、まちの中での生活や運営のルール作りを通して、「自分たちで自由に考え、自主的にやってみること」「仲間との協力や衝突を通して人と繋がること」「自治の仕組みづくりに参加すること」を目的に実施した。

■日 時： 3 月 25 日(火)～27 日(木) 10:00～16:30

■場 所： 関戸公民館ヴィータホール

■テーマ(内容)： 仮想街での 職業体験・自治運営体験。

■対 象： 7 歳から 15 歳の市民(付き添い等大人は入場不可)

■人 数： 延べ 187 人

■費 用： 無料



■まとめ： 職業体験イベントにとどまらず、「まちづくりへの参画」体験を促すための仕掛けとして、まちなかの課題について子どもたち同士で話し合い、解決策を考えるタウンミーティングなどを導入するなど、子どもたちが住民自治に関心を持つきっかけづくりにつながった。今後については、全国で展開されている「こどものまち」が、5 日～1 週間など、中期的に実施している事例が多く、本事業でも同程度の規模での開催まで拡大するかどうか、一般利用の貸館事業とのバランスを踏まえつつ、検討していく。

4

管理・運営

施設使用状況

1. 永山公民館

■開館日数： 平日＝221 日、土曜日＝50 日、日・休日＝66 日、休館日数＝28 日

施設	使用可能件数	一般	市役所関係	主催	計	使用率	使用人数
ベルブホール	1,011	338	138	110	586	58.0%	25,735
第1音楽室	1,011	864	21	10	895	88.5%	9,848
第2音楽室	1,011	734	2	1	737	72.9%	2,217
集会室	1,011	837	16	34	887	87.7%	13,015
学習室	1,011	774	6	14	794	78.5%	5,822
視聴覚室	1,011	585	53	48	686	67.9%	8,684
創作室	1,011	652	7	5	664	65.7%	4,742
和室	1,011	786	13	4	803	79.4%	4,557
第1保育室	1,011	87	4	56	147	14.5%	1,436
第2保育室	1,011	109	10	56	175	17.3%	1,516
ギャラリー	1,011	481	93	109	683	67.6%	-
計	11,121	6,247 (56.2%)	363 (3.3%)	447 (4.0%)	7,057	63.5%	77,572

2. 関戸公民館

■開館日数： 平日＝223 日、土曜日＝52 日、日・休日＝64 日、休館日数＝26 日

施設	使用可能件数	一般	市役所関係	主催	計	使用率	使用人数
ヴィータホール	1,017	322	51	129	502	49.4%	24,506
第1学習室	1,017	365	96	64	525	51.6%	9,035
第2学習室	1,017	292	103	59	454	44.6%	8,751
(大会議室)	205	79	86	40	205	-	5,766
第3学習室	1,017	645	52	18	715	70.3%	7,275
和室1	1,017	495	20	22	537	52.8%	2,822
和室2	1,017	439	23	22	484	47.6%	1,681
茶室	1,017	222	6	7	235	23.1%	1,411
創作室	1,017	453	12	76	541	53.2%	6,657
スタジオ	1,017	811	2	9	822	80.8%	7,369

保育室	1,017	58	17	67	142	14.0%	761
ギャラリー	1,017	273	147	111	531	52.2%	-
計	11,187	4,375 (39.1%)	529 (4.7%)	584 (5.2%)	5,488	49.1%	70,268

※大会議室は第1 学習室・第2 学習室での集計を再掲



令和6年度（2024年）公民館事業報告書

発 行 多摩市立永山公民館
〒206-0025 多摩市永山1-5
TEL. 042-337-6661

多摩市立関戸公民館
〒206-0011 多摩市関戸4-7 2
TEL. 042-374-9711